



羽咋市

令和4年度後期

教育委員会だより

HAKUI CITY BOARD OF EDUCATION

令和4年10月から令和5年3月までの本市の学校教育に関する取組について主なものを取りまとめました。

ハンドブックを作成した児童
＝羽咋市役所

羽咋市邑知小の4年生10人が邑知地区の住民に防災意識を高めてもらうと、防災活動の手順などを記した「減災・防災ハンドブック」を作成し、27日、市役所に八島和彦教育長を訪ね、



防災意識高めて 羽咋・邑知小4年生

完成を報告した。

ハンドブックはA5判、10ページで、邑知地区の過去の水害や防災グッズの紹介、災害に備えて行動を時系列で決めておく「マイ・タイムライン」の一例などを盛り込んだ。

社会の授業で「自然災害から暮らし

住民向けハンドブック作成

を守る」をテーマに、9月上旬から約1カ月かけて仕上げた。約200部用意し、全校児童114人のほか、市内の公民館や図書館などに配布した。福田龍生君(10)は「普段から災害を意識し、身を守るのに役立ててほしい」と話した。

10月28日(金) 北國新聞

「新聞読んで」 感想文コンクール 考える力向上

羽咋・邑知中から上位3人

紙と電子版 授業に活用

中学生の部の入賞者10人のうち、邑知中からは澤田美羽さん(2年)と山岸美晴さん(3年)が最優秀賞、松岡澤さん(同)が優秀賞に輝いた。邑知中では始業前10分間に生徒が印象に残った記事を発表し、クラス内で意見交換する時間を設けている。生徒

はさまざまな記事を読み、自分の意見をまとめて発表に臨んでおり、八島和彦教育長は「新聞は文章の読解力、考える力を養うのに有効だ」と指摘する。大山久祥校長は「自分の考えを持てるようになったことが受賞につながった」と喜ぶ。

中学生の部で入賞した(右から)澤田さん、松岡さん、山岸さん
— 羽咋市邑知中



北國新聞社が石川県内の小中高校生から募集した第18回「新聞読んで」感想文コンクールの受賞者が決まった。中学生の部の最優秀賞2人はともに羽咋市邑知中の生徒が選ばれ、優秀賞にも1人が入った。同校は他校に先駆け、今年4月に北國新聞の電子版「北國新聞デジタル」を授業に導入。市教委は紙、電子版問わず新聞に親しめる環境が、読み書きと考える力を伸ばしている。と手応えを感じている。

がったのではないかとみて

同校では休み時間にタブレット端末で電子版の記事を読む生徒もいる。玄関近くに設けた北國新聞のコーナーでは、生徒が集まって記事を読む姿が目立つ。祖父の影響で新聞を読むの

49人、15校が入賞 12日に表彰式

第18回「新聞読んで」感想文コンクールには、小学生、中学生、高校生の3部門に計5742点の応募があり、個人49人、優秀学校賞15校が選ばれた。

入賞者一覧

【小学生の部】最優秀賞 澤夢奈(羽咋市邑知小4年)▽優秀賞 前川翔那(白山市千代野小1年)大久保叶奈(輪島市河井小4年)中山日代里(羽咋市粟ノ保小6年)▽佳作 徳野良子(野々市市野々市小3年)山岸友里子(羽咋市邑知小4年)川原依子(金沢市泉小5年)福永幸(同市森山小5年)前多美羽(金沢附小6年)

【中学生の部】最優秀賞 澤田美羽(羽咋市邑知中2年)山岸美晴(同3年)▽優秀賞 犬原嘉乃(内灘町内灘中1年)兵部愛菜(小松市松崎中1年)高木陸生(金大附属中3年)松岡澤(羽咋市邑知中3年)▽佳作 落倉愛美(金沢学院大附属中1年)目末歩佳(小松市高城中2年)大西利果(金沢市兼六中3年)天野杏詩(白山市北原中3年)

【高校生部】最優秀賞 高木大雅(石川高専3年)▽優秀賞 大呂美月

が日課の松岡さんは「羽咋のニュースが載っている石川北のページから開く。見出しが気になる記事ほど読みたくなる」と語る。

受賞した3人のお気に入りのコーナーは「パンナン編集委員コラム」という。澤田さんと山岸さんは「新聞はふるさとのことを教えてくれるだけでなく、いろいろな考え方や文章を書くときのお手本になる」と口をそろえた。

表彰式は12日午前11時から、金沢市の北國新聞20階ホールで行う。入賞者、優秀学校は次の通りで、最優秀賞、優秀賞、佳作の全入賞作品を8〜11日付朝刊で紹介する。

(泉丘高1年) 山田泰輔(同) 米澤舞(同) 山本健一朗(錦丘高1年) 奥村奏太(小松高2年) 藤田怜那(同) 高田楓歌(錦丘高2年) 中尾哉月(田鶴浜高2年) 赤坂和泉(飯田高3年) 佐野愛里紗(同)▽佳作 赤川真優(二水高1年) 太田謙良(泉丘高1年) 横山実香(同) 北本紗枝(錦丘高1年) 林果凛(同) 楠湯花(羽咋高1年) 新野悠希子(田鶴浜高1年) 前田花歩(同) 野野誠明(飯田高1年) 米谷奏月(小松高2年) 鈴木優子(金大附属高2年) 山元萌々夏(金沢商高2年) 出淵浩翔(金大附属高3年) 大倉桃香(七尾高3年) 高崎結(田鶴浜高3年) 徳山咲菜(同) 中川繪輝(同) 米里彩(穴水高3年)

【優秀学校賞】白山市白鳥小、輪島市三井小、羽咋市赤小、同市邑知小、金沢学院大附属中、小松市松崎中、羽咋市羽咋中、金沢学院大附属高、穴水高、田鶴浜高、飯田高、羽咋市高、宝達高、金沢商高、野々市明倫高

私のお母さんは、松本かおりさんの野獣の子育ての記事が好きで毎回楽しみにしていて欠かさずに読んでいます。その度にお母さんは、「そろそろわかるわー」と共感したり、大きな声で笑ったりしています。ある日の記事でお母さんが私に「これ弟みたいよ」と言つので、私も気になって読んでみることにしました。その記事は松本かおりさんの子供のかんしゃくのことについて書いてありました。私はかんしゃくの意味をお母さんに聞いてみました。かんしゃくとは、小さな子供が意味なく泣いたり、無理なわがままを言っ

弟の心の声を感じたい



てダダをこねたりする」とこのようです。そこには、かおりさんの子供がささいなことで泣き暴れたり、お菓子を欲しがるのであげたのに、「いらぬい」と言つてそのお菓子を地面に落としてしまい、お母さんのかおりさんが怖い声で怒ってしまったという記事でした。でもそのわがままの原因は子供が何かに頑張ったあかし、分かってほしいと言つ心の叫びなのではないかと言つてお母さんへ話した。

私には、もうすぐ3才になる弟がいます。私のことを「ねーねー」と呼びます。言葉も上手になつてきて「ねーねー一緒に遊ぼう」「ねーねーおむたいになりたい」とかわいいことを言つてくれます。だけど、自分の思い通りにならなかつたりすると、「ねーねーきらい」「ねーねーあつちいて」と泣きながら叫びます。お母さんやお父さんに対しても同じで「きらい、あつちいて」が口ぐせのように出ます。「こはんきらい、いらぬい」と言つたかと思えば、「じゃあ、こはん終わら」と言われると「いやー」と言つて床に大の字になってみたり、理由も分からず泣き続けたり、本当にかおりさんの言つてることがそのまま日常にあります。こつな

たら私にはどうしようも出来ないのです。弟の側からはなれるか、長く続くときには「うるさい」と怒つてしまいます。お母さんも困つて、「どうしてほしいの」と言っています。でも弟は泣くばかりで理由は言いません。周りは困り疲れているだけです。だけど、この記事を読んでるうちに考えました。弟が泣いたり暴れたりするのは何か理由があるんだと。例えば、保育園で嫌いな野菜をがんばって食べたから家では甘えてご飯はいらぬいと言つたり、お母さんが夜勤に行つて寂しかったとか、弟なりの理由があるけど、言葉ではうまく伝えられないから泣いたり暴れたりして表現しているのかなと思えました。そう思うとそんな弟がもっともつとかわいと思えてきて、今まで分かつてあげられなくてごめんねという気持ちになりました。これからは弟の心の声や思いを感じ取つて、時にはお母さん達に代わりに伝えられるようになりたいと思います。

羽咋市邑知小4年
澤さわ
夢奈ゆめな

我が家の朝は新聞の争奪戦から始まります。祖父から始まり父、母、最近では兄までもが新聞を読みます。私は新聞の何が面白いのだろうとずっと思っていました。しかし中学校に入ってから新聞の学校では朝のスピーチで新聞記事を紹介するという事が行われています。そのためにも私も慌てて新聞記事を探していると母から



「毎日、新聞に目を通せばいいんじゃない？そしたら慌てて記事を探さなくてもいいがね。」と言われそれから時々、新聞をみるようにしていました。家族にもいい記事があったら教えてね！と伝えてあります。

そんな時、毎週金曜日にパンパン編集委員コラムというコーナーがある事に気づきました。最初は何となく読んでいましたが中学生の私でもわかりやすく、ずっと頭に入って読みやすいのでいつしか金曜日が楽しみになっていました。

私の推しは宮本南吉さんです。その日の宮本さんのコラムは石川と富山は良き兄弟というものでした。宮本さんにはソリの合わない弟がいるそうです。

互いに認めあって 羽咋市邑知中2年 澤田 未羽

そして石川県人と富山県人はお互いにライバル心をむき出しにするような側面がある。との内容でした。

私には双子の妹がいます。仲が悪いわけではないけどすぐにケンカになります。妹は悔しいくらいに私より何でも出来て自分でも私よりは上だと思っています。まわりの友達からもきつとそう思われているはずで

私はそれがとても嫌で妹が憎いと思う事もあります。でもある日、私の準備が違いと言って自転車で行ってしまいました

た。私もどうぞー先に行って下さいと強がってみたものいざ一人で行くことと思うととても不安で先に行った妹を必死で追いかけていました。後で聞くと妹も同じ思いで後ろから私に来るのがみえて少しゆっくり自転車をこいでいたそうです。産まれてからずっと私の隣には妹がいます。写真のほとんどは2人で並んでいます。一人でいる事がほとんどない私達にはお互いが隣にいる事で安心して生活を送っているんだと気がつきました。そしてお互いに刺激し合い姉妹だけどライバルでもありません。

石川県と富山県もそんな関係だと私は思います。どちらが上とかどっちがすごいとかではなくどちらにも魅力的なところがあって互いの魅力を認め合えばいいのだと思います。私も妹の優れている所は素直に認めこれからも仲良くして行こうと思えました。

石川県と富山県はお隣さん同士これからも良き兄弟として仲良くすればお互いもっと発展し魅力的な県になるはずです。

宮本家の兄弟もいつかわだかまりがとけ良き兄弟となると思いますね。

「浅野川へ行きたい。それも月の出ている夜に。」私からの突然のお願いに両親は少し驚いているようでした。

天神橋をテーマにした記事を読んで、今からちょうど三年前に泉鏡花に所縁のある浅野川のほとりを家族と共に歩いたことを思い出しました。そして、今度は天神橋が舞台となっている鏡花の「義血侠血」を読み、どうしてもその天神橋を訪れた理由がありました。



この作品には目が離せなくなる場面が多くあります。まず、馬車の御者をしていた村越欣弥が、人力車と競争する場面や白糸が出刃包丁を持ち凶行に及んでしまつ場面。また、裁判の場で欣弥が白糸に白糸を迫る場面などです。その中でも天神橋で欣弥と白糸が再会し、心を通わせる場面が一番印象に残っています。それも何度か読み返すたびに、なぜかこの場面がますます私の心をとらえるのです。そこで、実際に天神橋の上に立てばその理由が分かるかもしれないと思いました。また、せっかくですので欣弥と白糸が再会したときと同じように月の出ている夜にしました。

天神橋は、作品当時とは違い

天神橋の上で 羽咋市邑知中3年 山岸 美晴

鉄骨の橋となっていました。それでもライトアップされた橋に趣のある美しさを感じました。

私は橋の上に立ち、二人の再会場面を想像しようとしていました。周囲は静寂に包まれていきます。そして、川面に映る月明かりを眺め、せせらぎにじっと耳を傾けていると、ふと寂しさにも似たような言葉にできない気持ちになりました。そこで気付いたことがあります。それは、天神橋でのロマンチックな場面に、私は胸がときめくようなうれしさを感じる一方で、切なさも感じていたことです。どうしてこのように相反する感情が湧き起こるのか。それはきっとこれからの二人に待ち受ける悲劇に係しているのだと思いました。

つまり、天神橋での二人の幸せな気持ちを想像するほど、二人の悲劇的な運命にやるせないを感じてしまつのです。それが切なさとして私の心に残り、この場面を印象付けたのでしよう。

実際に二人が最期を迎えるラストシーンの描写はわずしかありません。きっと鏡花は二人の最期より天神橋での幸せな場面を強調することによって、悲劇による切なさをより色濃く読み手に感じさせたかったのではないかと思いました。それに気付いたとき腑に落ちたような思いをしました。そして、悲劇の中で描かれる二人の愛に文学としての美を感じ取ることができました。

両親は私の表情を見て笑みを浮かべ、退屈そうにしている二人の妹の手を取り、車に戻ろうとしました。私は天神橋から見える風景に名残惜しさを感じながら、家族と共に浅野川を後にしました。

11月9日（水）北國新聞

学ぶ楽しさ 新聞で知る

本社「新聞読んで」感想文コンクール入賞



「新聞読んで」感想文コンクールの入賞を報告した児童生徒
—羽咋市役所

羽咋の6人 喜び報告

北國新聞社の第18回「新聞読んで」感想文コンクールに入賞した羽咋市の小学生6人は15日、市役所を訪れ、岸博一市長に喜びを伝えた。市内の全8小中学校では新聞を活用する授業が定着しており、市教委は知識を蓄えて考える力を磨く「新聞力」を生かした教育に手応えを感じている。「学ぶ楽しさを新聞で知った」という6人は今後も新聞を通して活字に触れ、学びを続けていくと意気込んだ。

訪れたのは、畠知中の澤田 美羽さん(2年)と山岸美晴さん(3年)、松岡凛さん(同)、畠知小の澤夢奈さん(4年)と山岸友里子さん(同)、粟り上げた記事や内容を説明

市教委 知識と考える力 身に付く

し、1日1週間かけて感想文を書いたことを説明した。松岡さんは「新聞で紹介された後、地域の人たちから『すごいね』と言われてうれしかった」と笑顔で話した。

6人の入賞をたたえた岸市長は、インターネットの普及で子どもたちが活字を読む機会が減ったとした上で、「新聞を読む習慣があれば幅広い分野について知ることができ、自分の思いを活字にできる力も身に付く」と強調した。

畠知小、中の4人は、過去のコンクールでも入賞している。山岸美晴さんは7回目、松岡さんは5回目で、澤田さんと山岸友里子さんは2回目となった。泉鏡花の「義血 俠血」を読み、天神橋(金沢市)の記事を感想文で取り上げた山岸美晴さんは「文学の面白さと奥深さ、知らないことを学ぶ楽しさは、新聞を通して知った」と語った。

優秀学校賞には羽咋中、畠知中校区の畠知小と余喜小が選ばれた。畠知小の釜谷剛校長は「コンクールに感想文を出すのが学校の伝統になっている」と紹介。余喜小の濱田弘一校長は廊下に北國新聞を読むコーナーがあり、児童が毎日、関心を持った記事に感想文を書く取り組みが定着している」と説明した。

11月16日(月) 北國新聞

英語で地元紹介

羽咋小が台湾と交流

羽咋市羽咋小は13日、台湾・台北市の台湾五常小とオンライン交流会を開き、羽咋の6年生28人は、千里浜なぎさドライブウェイなどを英語で紹介した。

羽咋の児童は「地元には日本で唯一車で走れる海岸がある」と語り、千里浜に全国のライターが集う「サンライズ・サンセット・ツリーリング・ラリー（SSTR）」（北國新聞社後援）なども説明した。台湾の児童はホテルがすみやすい環境づくりの取り組みなどを紹介した。20日にも行う。

12月4日（日）北國新聞

羽咋、英検準2級 以上合格者を表彰

市教委

羽咋市教委は11日、市役所で教育長表彰式（写真）を行い、昨年実施された英検で準2級以上に合格した小中学生43人をたたえた。過去最多の合格者となった。

高卒レベルの2級に合格した中学生5人に教育長表彰、準2級に合格の中学生36人と小学生2人に奨励賞が贈られた。

八島和彦教育長が賞状を授与し、2級合格の北山里

空さん（羽咋中3年）が「さらに英語力を磨いて外国人と交流したい」と英語で意気込みを語った。北山さん以外の2級合格者は次の皆さん。

運本望乃、竹津緋七乃、杉本彩葉（以上羽咋中3年）堀合美喜（同2年）



1月12日（木）北國新聞

勉強法を教える川本さん
(左) 羽咋市邑知中



効果的な学習法 勉強の意義学ぶ

羽咋・邑知中

羽咋市の平教育振興基金による「小中学校ワークショップ」は13日、邑知中で始まり、1、2年生約70人が効果的な学習法と勉強する意義に理解を深めた。

学習塾「東大セミナー」（金沢市）の川本雄介取締役が講師を務め、「予習、授業、復習のサイクルを徹底することが学力向上のポイントだ」と説いた。生徒はグループワークを通じて

勉強する理由や目的について考えた。
ワークショップは2月16日まで、市内の全8小中学校で行われる。

1月14日（土）北國新聞

西北台小に登校用バス

羽咋市 4月から、児童の足確保

羽咋市教委は4月、上甘田地区（滝谷町、柴垣町）に住む西北台小児童向けに登校用スクールバスの運行を始める。羽咋中生徒の送迎に使用中の2台を活用し、ルート変更などで対応する。冬季を中心に保護者の車、タクシーで登校せざるを得なかった児童の足が確保されることになる。

市教委によると、羽咋中のスクールバスに児童の乗車スペースを確保できるようになり、ルート見直しや停留所を新設した。4月から上甘田地区の中学生12人、児童18人が利用できることになった。

26日に西北台小で保護者15人が集まり、八島和彦教育長がスクールバス運行の内容を説明した。保護者の後藤恵瑠さん(41)は「送迎の負担が軽くなるのでありがたい」と語った。市教委はスクールバスの利便性向上を進めており、担当者は「引き続き各校のバス運行の改善を進めたい」と話した。

1月27日（金）北國新聞

ICT授業推進へ指針

羽咋の若手教員ら考案

北國新聞デジタルなど定着へ

羽咋市の若手、中堅教員が、ICT(情報通信技術)を活用した授業のモデルづくりを進めている。タブレット端末の効果的な使い方などをまとめ、20日に市教委に「指導指針」として提出する。AI(人工知能)ドリルや北國新聞の電子版「北國新聞デジタル」を使った授業の定着にもつなげる。市教委は市内8小中学校で、ICT機器を積極的に利用する授業方式「ハクイズム」の浸透を図っている。教員18人が各校で行われた



教員18人が各校で行われた

ICTを活用した授業の指針づくりを進める教員

羽咋市羽咋小

授業を分析し、学習意欲向上や理解を深められるICT機器の活用法を研究してきた。

市内の教員であれば専用サイトを通じて各校の授業の動画を閲覧することができ、2月には「優良授業」を教員の投票で選ぶ取り組み

みも始めた。羽咋小の川崎利行教諭(42)は「ICT機器を使った指導力の底上げにつなげていきたい」と話した。

3月2日(木)北國新聞



◇…羽咋市の姉妹都市である群馬県藤岡市の特産イチゴ「やよいひめ」が1日、羽咋市内全8小中学校の給食で振る舞われた

◇…児童生徒約1200人が、大粒に実った4千粒を味わい、やよいひめの甘さやみずみずしさに舌鼓を打った。

◇…羽咋、邑知中の生徒は8月、修学旅行で藤岡市を訪れる。「今度は羽咋の特産品を紹介したい」とふるさとに自慢に意欲を。

超3割の小6の英検4級以上

羽咋で表彰



英検の3、4級に合格した児童
羽咋市邑知小

今年度の英検で、羽咋市の小学6年生の33・6%が4級以上に合格したことが市教委のまとめで分かった

た。中学中級に相当する英語力で、合格者は過去最多となった。市教委は受験料助成など英語教育推進の成果が現れたとみている。市内の全6年生128人のうち、準2級に2人、3級に12人、4級に29人が合格した。市教委は2019年度から児童に英検1回分の受験料の半額を助成しているほか、5、6年生を対象に「英語漬け」のキャンプを実施

している。新年度からは半額助成の対象を2回分にも広げることしており、八島和彦教育長は「小6の4級以上合格者数を5割以上にしたい」と話した。15日は邑知小で3、4級の合格者を対象にした「あすなろ賞」の表彰式が行われた。3級に合格した6年の山田智久君(12)は「科学者になるために、1級合格を目指す」と笑顔を見せた。

3月16日(木)北國新聞

3月10日(金)北國新聞

学びびや 笑顔で別れ

小学校で卒業式

津幡町以北の3市6町の小学校34校で17日、卒業式が行われた。今月末に閉校する羽咋市余喜小では4人が最後の式に臨み、輪島市鶴巣小では唯一の6年生が新たな一歩を踏み出した。卒業生はコロナ下で授業や行事に制限を受けながらも、希望を胸に満開の笑顔で小学校生活を締めくくった。

羽咋・余喜 146年の歴史に幕

146年の歴史に幕を閉じ、卒業証書を受け取る余喜小では、4人がそれぞれ卒業証書を受け取り、保護者や教職員に感謝を伝えながら、「ふるさとに貢献できる大人になりたい」などと意気込みを語った。

濱田弘一校長は式辞で「自信と誇りを持ち、夢の実現に向けて羽ばたいてほしい」と述べ、

松本春彦PTA

笑顔で記念撮影する卒業生
—羽咋市余喜小

会長が祝辞を贈った。文部科学省の方針に基づき、国歌・校歌斉唱や合唱以外はマスクを着用しない児童がほとんどだった。

式後、卒業生は教室で保護者に感謝の手紙を贈り、担任教員に花束を手渡した。校舎玄関で在校生や教員に拍手で見送られ、村田監理さんは「学校がなくなるのは悲しいけど、中学でも4人で力を合わせて頑張りたい」と笑顔で話した。

余喜小は1876（明治9）年開設の成基小と金首小が前身で、92年に余喜尋常小となり、1947（昭和22）年に校名が余喜小となった。今年4月から邑知小に統合されるが、校舎は地域の交流施設に活用される。26日に閉校式と記念事業が行われる。

輪島・鶴巣 1人巣立つ

輪島市鶴巣小では、卒業生は椿原莉穂さんのみで、教職員や保護者が門出を祝った。

滝井篤子校長から卒業証書を受け取った椿原さんは、1人で臨んだ入学式など6年間の思い出を振り返った後、「思いやりの心と、互いに助け合う心を大切にしてほしい」と下級生8人にエールを送った。



拍手を送られ、式場を後にする椿原さん
—輪島市鶴巣小

羽咋市余喜小の閉校式は26日、同校で行われ、児童や教職員、地域住民約180人が思い出の詰まった母校に別れを告げた。児童が「ありがとう」と感謝を伝え、卒業生らと心をついに校歌を響かせて146年の幕を閉じた。最後の在校生35人は校歌で歌われる「いざ友よ ともに進まん」という余喜小の精神を胸に4月から邑知小に通う。

羽咋、閉校式

岸博一市長の式辞に続き卒業生でもある濱田弘一校長が涙を流しながら「余喜小の心はいつまでも引き継がれる」と閉校を惜しんだ。5年の中村光来君が「思い出が詰まった余喜小学校ありがとう」と言いました。感謝の気持ちを述べ、全員で校歌を斉唱した。濱田校長が校旗を返納した。

「当時は1学年で80人以上いた。一緒に学芸会で踊ったのを思い出すね」と話したのは、同級生の三宅美佐子さん(84)と細川治子さん(84)。駆け付けた卒業生らは記念撮影をしたり、校内を歩いたりして懐かしみ、長野県千曲市の公務員山岸外枝さん(62)は「友達と下校中に木の実を取って遊んだ」と振り返った。

式典後の記念事業では児童がよ

余喜小の心 いつまでも

146年の歴史に幕 児童、住民ら180人が別れ



空に風船を飛ばして校舎に別れを告げる児童や教職員—羽咋市余喜小

さこいを演舞した後、5年の今井皇介君と小澤瑞希さん、2年生の途中まで余喜小に通った稲村建男君らが校歌を刻んだ記念碑を除幕し、児童と教職員が風船を空に飛ばして母校に思いをほせた。

余喜小は1876(明治9)年度開設の成基小と金曾小が前身で、1892年度に余喜尋常小となり、1947(昭和22)年度に校名が余喜小となった。これまでに6千人以上の卒業生を送り出した。ピーク時の58年度には532人が在籍したが、今年度は39人だった。校舎は地域の交流施設に活用される。